

宮城県復興まちづくり通信

Vol.22

平成27年9月発行

宮城県土木部復興まちづくり推進室



トピック

1. 復興・創生期間のまちづくりに向けて

平成27年7月18日、東北大学川内キャンパスにて、日本都市計画学会東北支部主催により「～東日本大震災からの復興まちづくり『これまでの5年』と『これからの5年』～」と題したシンポジウムが開催されました。震災から5年目に入り、これまでの復興まちづくりの取り組みと課題への対応を振り返るとともに、平成28年度以降5年間(復興・創生期間)の復興まちづくりで取り組むべき方向性について意見交換が行われました。

シンポジウムは3部構成からなり、第1部では、宮城県土木部遠藤信哉部長より「東日本大震災からの復興～『これまでの5年』と『これからの5年』～」と題した基調講演が行われ、県及び沿岸市町における5年間の取り組みや復興まちづくり進捗状況、防集移転元地の活用など時間経過に伴い顕在化した課題への対応、復興・創生期間のまちづくりとして、地方創生の観点から新たな人の流れの創出、安定雇用の確保、安心して暮らせるまちづくり等について紹介がありました。

第2部では、現場での取り組みとして、井口経明前岩沼市長により「岩沼市が目指す復興まちづくりの姿」について、星卓志工学院大学教授により「札幌市による山元町支援から見る復興まちづくりの視座とまちの魅力づくり」について、皆川猛復興庁宮城復興局次長により「新しい東北に向けた復興まちづくりの戦略と現在の取り組み」について講演が行われました。

第3部では、北原啓司弘前大学教授がコーディネーターをつとめ、前述4名の方々がパネリストとして、「創造的復興と地方創生～持続可能な地域づくりを目指して何をすべきか～」をテーマとしたパネルディスカッションが行われました。この中では、「住民意向の変化にどのように向き合ったのか」「持続可能な地域づくりを目指す上でコンパクトシティ論がうまく捉えられたか」等について活発な意見交換がなされました。

沿岸被災地では、住宅再建等が進む一方で、震災の影響により人口流出に拍車がかかり、高齢化、労働力不足など取り巻く環境は厳しさを増しており、復興まちづくり推進室では、沿岸市町とともに復興後を見据えながら、持続可能な地域づくりを目指した取り組みを今後とも行っていくこととしております。



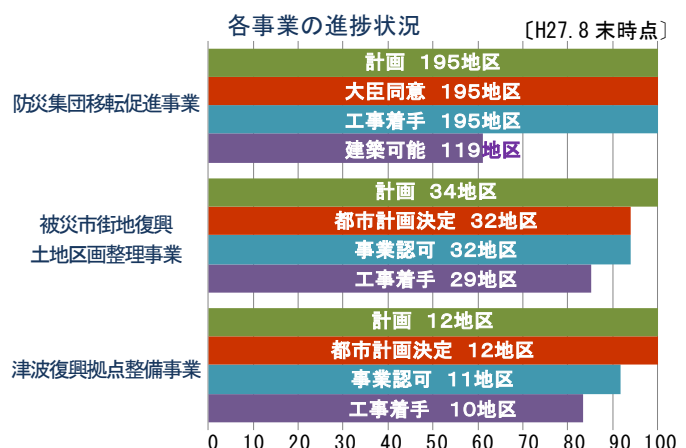
日本都市計画学会東北支部シンポジウムの状況

2. 復興まちづくり事業の進捗状況について

防災集団移転促進事業については、計画地区数195地区の全地区において事業計画の大臣同意を得ており、工事着手は195地区(100%)、住宅等建築可能地区は119地区(約61%)となっています。

被災市街地復興土地区画整理事業については、計画地区数34地区のうち、32地区(約94%)で都市計画決定がなされ、事業認可は32地区(約94%)、工事着手は29地区(約85%)となっています。

津波復興拠点整備事業については、計画地区数12地区のうち、12地区(100%)で都市計画決定がなされ、事業認可地区数は11地区(約92%)、工事着手は10地区(約83%)となっています。



◇ 各地域の動き

1. 岩沼市「玉浦西まち開き」が開催されました。

平成27年7月19日、玉浦西まちづくり住民協議会や岩沼市らが主催となり、まち開きイベントが開かれました。午前には、竹下互復興相ら来賓と町内会役員ら住民代表、ボランティア関係代表、派遣職員代表が参加し、これまでのまちづくりや支援に対する感謝の想いを伝える式典が行われ、午後には、同地区内の公園において、記念碑の除幕式及び住民による踊りや和太鼓の演奏などが披露され、関係者と住民が交流を図りました。

岩沼市玉浦西地区は、甚大な被害を受けた沿岸6地区が一体となって移転を決め、「玉浦西地区まちづくり検討委員会」において議論を重ね、従来のコミュニティを維持した緑豊かなまちづくりを進め、平成25年12月に第1期の宅地引渡し、今年7月には団地内に、100以上の生産者が登録する産直コーナーを持つスーパーマーケットもオープンするなど、新たなまちとしてスタートしました。



記念碑除幕式の様子

2. 南三陸町 株式会社ウジエスーパーと立地協定を締結しました

平成27年8月8日、南三陸町と株式会社ウジエスーパーは、復興のため造成が進む志津川地区市街地に設置を予定するショッピングセンターの立地協定を結びました。

新設するショッピングセンター内には、ウジエスーパーの他にホームセンターとドラッグストアの出店も決まっており、その他にも飲食店とサービス業を誘致する予定としております。南三陸町志津川地区では、震災以後、スーパーマーケットが無い状態が続いておりましたが、この度の立地協定締結により、買い物の利便性向上に向けての道筋が見えてきたところです。

立地の予定地は、防災集団移転中央地区に近い天王前地区の町有地と民有地からなる23,190m²の敷地で、平成28年9月までに町が造成工事を行い、ウジエスーパーに土地の引き渡しを行った後で施設を建築し、平成29年中の完成・開業を目指しております。

◇ 復興まちづくり推進室の取り組み

1. 商業産業誘導に関する取り組み

■復興まちづくり産業用地カルテ 随時更新中です

当室では昨年度、沿岸市町における企業立地の検討材料として活用できるよう「復興まちづくり産業用地カルテ」を作成し、ホームページでの公表や企業誘致イベントでの配布など、各種のPR活動等に活用してきたところです。

今年度は、カルテをより充実させるため、復興事業の進捗に合わせ、掲載地区の追加や掲載内容の更新を随時行っておりますので、産業・商業用地のPR活動等に是非御活用ください。

また、8月には、「復興まちづくり産業用地カルテ」の概要や掲載地区の一覧を示した、A4版サイズのリーフレットを新たに作成しましたので、併せて御活用ください。

※復興まちづくり産業用地カルテのダウンロードURL

<http://www.pref.miyagi.jp/site/karte-sangyou/ri-furetto.html>



産業用地カルテリーフレット



産業用地カルテ

■平成27年度「宮城県企業立地セミナー in Tokyo」へ参加しました

平成27年8月4日、ロイヤルパークホテル（東京都）において、「宮城県企業立地セミナー in Tokyo」が開催されました。セミナーには、企業203社368人の方々のご来場され、大盛況のものとなりました。

当室では、東日本大震災からの復旧・復興状況や復興への取組みをパネルにより紹介したほか、宮城県ブースにおいて、県内への企業誘致に向けたPR活動を行いました。

〔主催：宮城県企業立地セミナー実行委員会〕



展示ブースでの復旧・復興の紹介



情報交換会の様子

2. 情報発信・みやぎの復興まちづくりパネル展

当室では、被災された方々がより身近な場所で情報に接し、復興のあゆみを実感できるよう、各市町庁舎や三陸自動車道のパーキングエリアなどにおいて、復興パネル展示を随時開催してきたところです。

今年度は、新たに7月30日よりイオンモール石巻においても、石巻圏域3市町（石巻市、東松島市、女川町）合同でパネル展を開催しているほか、仙台市の青葉通地下道ギャラリー（青葉通りと東二番丁通の交差点地下）においても復興状況のパネルを常設展示しております。

また、今年度は震災から5年の節目を迎えることから、沿岸市町で進められている復興まちづくりの最新の状況を市町毎に掲載したパネルを作成し、県内のほか首都圏などにおいても展示を行い、県外へも広く情報を発信する予定としております。今後とも、パネル展などを通して被災地の現状を認識してもらおうと共に、観光等による交流人口の増大を図り、1日も早い被災地の復興に寄与してまいります。



イオンモール石巻でのパネル展示



青葉通り地下道でのパネル展示

◇ 市町からのたより

1. 石巻市 新しい魚市場が完成しました

東日本震災により全壊した石巻魚市場が完成し、平成27年9月1日より全棟の供用を開始しました。

新しい魚市場は、高度衛生管理型を導入した荷捌き施設を備え、これまで以上に、安全で安心できる水産物を供給する市場となっており、管理棟の2階には、この荷捌き施設を見学することができる通路が設けられています。

なお、平成27年10月18日（日）には、「いしのまき大漁祭り」が石巻魚市場を会場に開催される予定ですので、是非足をお運び下さい。

石巻市 復興政策課



西側から中央方面の様子

2. 女川町 高白浜地区、寺間地区及び桐ヶ崎地区の防集団地が完了しました

平成27年6月に、高白浜地区及び寺間地区における防災集団移転促進事業の造成工事が完了し、再建住宅の建築が始まっております。また、8月末には、桐ヶ崎地区の造成工事が完了いたしました。

今年度後半には、中心部では、運動場西地区27戸をはじめ5地区76戸、離半島部で3地区28戸において造成が完了し、順次引渡しを行っていく予定となっております。

女川町 復興推進課



桐ヶ崎地区

3. 名取市「震災メモリアル公園市民シンポジウム」が開催されました

平成27年8月28日、名取市文化会館において、名取市主催により「震災メモリアル公園市民シンポジウム」が開催され、約180名の方が参加されました。

シンポジウムは2部構成からなり、第1部では、国土交通省東北公園事務所脇坂隆一所長より「東日本大震災の復興記念公園及び国営追悼・祈念施設（仮称）」と題し、岩手県陸前高田市と宮城県石巻市における国営追悼・祈念施設（仮称）の基本構想の特徴と相違点などについて、引き続き、東北大学災害科学国際研究所の村尾修教授により「都市復興におけるメモリアル空間の形成と街の再生ー記録・記憶・再生ー」と題し、世界各地における自然災害被災地の復興メモリアル空間とそれを通じ街が再生してきている事例について、基調講演が行われました。



パネルディスカッションの様子

第2部では、閑上地区で様々な活動を行っている9名の方をパネリストとし、「①震災メモリアル公園はどのような空間にすべきか」、「②沿岸地域の交流人口拡大のために有効な取り組みは」の2つをテーマとし、パネルディスカッションが行われました。1番目のテーマでは、地域の方々の追悼と鎮魂の場とともに、「全国の方々へ津波の恐ろしさと教訓を伝える防災教育の場であってほしい」との意見が多数あり、また、「震災を語り継ぐ“語り部（かたりべ）”が園内に常駐できる施設がほしい」との意見もありました。2番目のテーマでは、「空の玄関仙台国際空港から日本三景松島への観光ルートの中に位置する地理的特性を生かすべき」、「閑上地区の魅力である“海、水（貞山堀）、魚（漁港）”をテーマとするイベントや施設整備を行ってはどうか？」など具体的な提案が多数出されました。

今後名取市では、2回のワークショップを行い、震災メモリアル公園の計画に、より多くの意見を反映させていく予定としています。

名取市 政策企画課

4. 「南三陸町“復興の橋”デザインコンペ」で優秀賞2作品を選出

南三陸町では、志津川地区を流れる八幡川に架ける人道橋を対象とした「南三陸町『復興の橋』デザインコンペ」を実施し215もの非常に多くの応募を頂いていましたが、平成27年7月19日に公開二次審査を開催し、その中で優秀賞として2作品が選定されました。

当初は、最優秀賞1作品に絞り込む予定でしたが、審査員の票が集中した2作品においても、それぞれで周辺事業との調整やコスト面等の問題が残ったため、町が引き継いで実現性も踏まえた検討・精査を進め、審査員のアドバイスもいただきながら最終的な採用案へと絞り込んでいくこととなりました。

今後は、選定のための概略検討業務を発注、橋梁形式が決まった段階で別途詳細設計業務を発注し、平成28年春までの設計完了を目標としています。



南三陸町 復興市街地整備課

○問い合わせ先 宮城県土木部復興まちづくり推進室
〒980-8570 仙台市青葉区本町3丁目8-1
TEL.022(211)3207 FAX.022(211)3295
e-mail fukumachi@pref.miyagi.jp
HP <http://www.pref.miyagi.jp/fukumachi/>

